

G I S等を活用した地域住民主体による被害対策の取組 ー兵庫県ー

【基礎情報】

- 位置 あいおいし やぶし かみちよう
兵庫県相生市、養父市、香美町



- 主な対象獣種
イノシシ

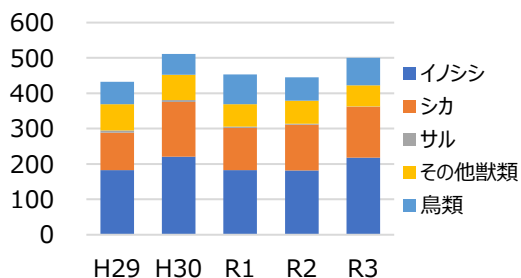
- 活用した技術

- GIS（獣害対策GIS）
- センサーカメラ（TREL20j他）
- ICTわな（アニマルセンサー、まるみえホカケン）

- 地域の状況

イノシシの被害が大きく、防護柵整備や加害個体の捕獲など地域住民が主体となった被害対策を推進する必要がある。

（百万円） 獣種別被害額（兵庫県）



【取組内容】

Plan：計画

被害・対策状況をGISに入力し可視化。これを基に集落と関係機関が連携して現状分析と対策を検討。必要に応じて住民と現地調査を行い、対策の必要性について認識共有。



取組前(R4.3)の被害状況



集落と関係機関が一体となった対策検討会

Action：改善

- 柵の追加補修やわなの設置箇所の変更
- 課題を踏まえ、次年度の取組について協議



防護柵の追加補修



捕獲檻の移動

Do：実行

検討結果に基づき、わなやカメラを設置して加害個体の捕獲。SNSによる情報伝達、成功体験の共有。



センサーカメラの設置



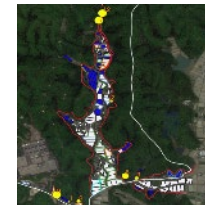
LINEによる情報共有

Check：点検

- 対策後の効果検証会を開催。
- カメラ撮影による加害個体の侵入ルートの確認
- GISによる被害軽減効果の可視化
- 防護柵の不備や捕獲有無の状況を確認
- 対応が必要な課題整理、やればできるという意識醸成



捕獲した加害個体



取組後(R5.1)の被害状況

【取組の成果及び評価】

- 被害状況などデータの可視化により対策の成果が時系列的に把握することができ、成功体験の共有が集落のモチベーションを向上させ、地域住民主体による持続的な対策の実施につながり被害も減少した。
- 地域住民・関係者が同じ視点で課題や対策の共有ができ、効率的・効果的な対策が可能となった。

【今後の展望、取組の普及方針】

- 市町職員や被害集落への研修会で、GISを用いた対策手法を共有し、県内の他市町へ同様の取組を波及させる。
- 「獣害に強い集落づくり」のための合意形成手法を確立させ、地域住民主体による被害対策の定着を図る。

参考：GIS画面イメージ

※ 被害の大小、対策の実施状況、動物の痕跡等を入力することで、複合的な要素を踏まえた対策の立案が可能となる。

